

○村松幸昌委員長 それでは、皆さん、おはようございます。

定刻、少し前ですけれども、皆さんおそろいですので、ただいまから予算決算審査特別委員会を開会いたします。

議第1号「令和5年度焼津市一般会計予算案」を議題といたします。

最初に、議員間討議を行います。

議員間討議の議題につきましては、事前に通告されており、お手元に配付した資料のとおりです。

1つの議題について、説明を含めましておおむね20分程度で行いたいと思いますので、よろしくお願いします。

なお、議員間討議は、自己の賛成、反対の判断材料とするため、ほかの委員の考えを聞くものであります。説明は簡潔をお願いします。

それでは、最初に杉田委員よりミニステーション運営事業費について、説明をお願いします。

○杉田源太郎委員 それでは、通告に従いまして提案というか、皆さんの意見を聞かせていただきたいと思います。

まず、4款1項6目ミニステーション運営事業費1,126万4,000円。

ミニステーション、この目的。

ミニステーション大富が使えなくなってから1年が経過いたしました。この事業の中にはミニステーション大富の代替地を求める経費は入っていません。私たちもずっとこれを要望してきましたが、今回の予算には入っていない。市のホームページでもミニステーションの目的、これをリサイクル意識の高揚を図り、資源物の分別回収を推進するとしています。ミニステーションの中でも地理的にも人口的にも一番使いやすく、桁違いにその回収量、利用量が多くて、その目的を果たしていました。まだほかにも3か所あるからとか、あるいは民営の回収場が増えているからそこを使ってください、こんな答えもありました。

民営の回収場では、段ボール、新聞、折り込みチラシ等を含む、あるいは雑誌、雑紙等です。これを再生利用としての原料が対象になっているやつだけです。

地域の皆さんの声として、近くのミニステーションを利用してと言われても、東益津、あるいは小屋敷、利右衛門、これは遠すぎると。大井川の場所を聞いたけど、どこだか分からなかった。毎週木曜から日曜日、午前9時から4時、仕事時間との関係でとても助かっていた。民営の回収場では、ペットボトルや瓶類、缶類、電球、電池、その他は出せない。地域での1週間の回収時で出し切れないことがある、時間的に無理があると。こんな声をいただきました。

市民の皆さんの利便性を考慮するなら、また、ミニステーションの目的をリサイクル意識の高揚を図り、資源物の分別回収を推進とするなら、予算をつけて病院建設事業が始まるまではミニステーション大富を再開する、その間に代替地を見つける、そういう努力をすべきじゃないかと私は思いました。皆さんの御意見を聞きたいと思いま

す。よろしくお願ひいたします。

○村松幸昌委員長 説明が終わりました。

本件について、皆さんの御意見を願ひします。

○岡田光正委員 岡田でございます。

確かに、今おっしゃったミニステーションの問題、一番最初、ここがなくなるよといった話のときに私にも相談がありました。でも、今考えてみますと、私はこのリサイクル意識の高揚、これ、非常にいいことだし、それから様々な場所で最近民間の業者さんもステーションを置いたり、あるいは新聞等の回収については販売店さんが定期的にやっていたかといったような内容があります。

それで、いわゆる大きな場所、借りる場所、こういったものを探していくよりも、むしろ今問題になっている出しに行くのが大変であるとか、あるいは出しに行けないよという時間帯の問題等あるならば、今、話題になっています個別回収、いわゆる市のほうで各家庭を回ってというような、こんな考え方も出てきております。

そういったものも、逆に言えば、これを機会に討論していったらどうなのかなと、研究していったらどうなのかなというふうに感じまして、今回のミニステーションの大富の部分、これについてはやむを得ないといいますが、場所的に探していくよりもそれ以外の方法をいろいろ研究していったほうがいいんじゃないかなというふうな私は気がしております。

ただ、もし回収量の多い場所へ、通常の月に1回の場所へ持って行けないというような事情がある場合、こういったものについては十分に各地域でそれぞれ研究していただいて、要望を我々のほうを受けていったらいかがなものかというふうには私は考えます。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

○深田ゆり子委員 私は、この問題にも何回か質疑させていただいております。その立場で。

いろいろ当局の説明もこの関係で言ってきたんですけども、今、これまで第19自治会からのみ要望が上がっているんで、第19自治会の範囲で当局は探していると。ここに搬入というか、持ってくる市民は大富だけじゃないんですね。小川地区、焼津地区、石津地区、かなり広い範囲から中心部に持ってきています。

そして、今、どういう方が持ってきているのかというのを考えると、大富地域の地元の方は年齢は関係なく持ってこれると思いますが、車を運転される方が多くて、若い子育て世代、そういう方々が多く持ってきていらっしゃると思います。

先ほど杉田委員がおっしゃった土日に持っていけるということがすごく助かっていたということで、リサイクルとか気候変動危機の対策をしていくために、市民の協力を求めていく、そのためには利便性というのを焼津市がちゃんと丁寧にやっていかなきゃならないということをしごく私はこの間も感じております。

市総合計画の市民への個別アンケートの中の個別意見の中にもミニステーションに対する意見がたくさん昨年ありました。こういう声を市や市議会がしっかり受け止める、このことが大事ではないかなと思いました。

そして、特定財源1,126万4,000円の今回市のミニステーションの予算が出ておりますけれども、この財源内訳を聞くと、特定財源ということで、その特定財源の中身は資源

物を売った先の回収費用になっているものですから、市民の方々が利便性よく持ってこれるところが増えれば、もっと特定財源としての財源も増えるということに私はつながると思いますので、利便性とリサイクルの推進を進めるためにも、新年度、ぜひ進めて拡充するための予算をつけていただきたく思います。

これからは、ずっと1年間探してもないんだったら、もう19自治会に私はこだわらないで、ただ、要望書が上がっているのが19自治体と言っていました、担当部はね。ただ、20自治会も上がっているのかもしれないですけど、部長が19と言っていたものだからね。だから、石津とか、小川とか、港とか、そういう範囲を広げた場所を探すということも、各自治会の御協力も仰ぐということもこれから必要になってくるのかなと。

本当に大きいところじゃなくても、大富の地域でどこか、小さい場所であればたくさんあると思うんですよ。ただいろいろ条件を受け付けて、そこはあれだから駄目だとか、狭いから駄目だとか、子どもが通るから駄目だとかいろいろ条件をつけてやっていけないということに、今、現状なっているものですから、そういうのを取り払う意味でもいろいろ知恵を出して、範囲を広げて探すということも必要じゃないかなというふうに思いました。

以上です。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

○鈴木浩己副委員長 大富のミニステーションにつきましては、皆さんおっしゃるとおり、長いこと大変多くの皆様に御利用をいただいて、かなり多くの方々がここの大富のミニステーションを利用していたということで、去年の3月で一時休止をしているわけなんですけれども、それ以前からそういうお話を伺っていて、地元の自治会さんともいろいろお話をさせていただく中で、じゃ、代替地を探してくださいよという、そういうことで市のほうから地元の自治会さんのほうにお話があったと。

これまで地元の自治会さんのほうから代替地として何か所か候補地を市のほうにお伝えをさせていただいたんですけれども、最終的にはまだそれが決定していないと。

面積的には700平米は最低欲しいよということ、あるいは接道要件ですとか、あるいは深田委員から通学路等のお話がありましたけれども、そういった様々な問題点、あるいは課題をクリアしないと代替地としてふさわしくない場所に焦ってつくっても逆に迷惑をかけてしまう場合があるものですから、市としても相当慎重に検討、協議を重ねていただいているというのが現状です。

ただ、令和5年度の新年度予算に新たな代替地の予算計上がされなかったというのは、非常に地元の我々としては残念でなりませんけれども、とにかく早い機会に代替地、あるいは新病院の建設の予定地も含めて、大富ミニステーションが再開をしていただけのように議長とも、また、奥川委員とも連携をさせていただく中で、地元の3つの自治会長さん方と連携をさせていただいて、早期に再開をさせていただくように働きかけをさせていただきたいなというふうに思っておりますし、以前も市長さんとか、あるいは市民環境部長さんともお話をさせていただく中で、地元の皆さんの気持ちはよく分かるということで一定の御理解をいただいているものですから、あとは用地さえ見つければというか、確保できれば再開の望みはあるなというふうに思っておりますので、今後とも地元の議員と連携をして働きかけをさせていただきたいと思いますので、よろしくお

願います。

以上です。

○村松幸昌委員長 ほかに御意見ありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 ほかに御意見がないようですので、本件につきましては以上で終わらせていただきます。

次に、杉田委員よりS I C周辺整備事業についての御説明をお願いします。

○杉田源太郎委員 それでは、2番目、8款5項1目スマートインターチェンジ周辺拠点整備事業として1,499万1,000円、この中に令和4年度土地利用構想ゾーニング図策定、この素案を来年度に整備をしていくとの説明がありました。

約100世帯の地権者、新型コロナウイルス感染症の中でその総会を開催できず、文書で総会を強行して、準備組合、8名の役員ですけど、が組織されて、市の職員が援助する、そういう組織となっています。スマートインターチェンジ周辺まちづくり、その名の下で開発行為を前提とした話合い、話合いと言っているのかどうか分かりませんが、それが今、進められています。

昨年、3つのグループで、おのおののゾーニング案、これがつくられました。3つの各グループには、役員と役員以外の方が1名、その組合員が参加している。つまり、全組合員に要請されたこの取組は、参加者は、役員以外は3名です。こういう中でゾーニング、これを今年度策定していく、整備をしていく。これについて非常に疑問を感じます。

それから、検討区域の地権者、これは約3割、そして検討区域外の住民約7割の意識の問題ですけど、今現在、後継者がいない、あるいは燃料や肥料等の様々な物価高騰で農業の継続が難しくなっている。これは現実だと思います。耕作放棄地が増えているのも現実。しかし、この検討地域、ここの3割の方たちは50年以上土づくりを続けてきた、それをしながら優良農地で営農されている方たちがいらっしゃいます。

また、農家ではないけどこの地に住み続けてきた方たち、その半数以上は市街化区域に編入され、開発行為をされることに反対をしています。検討区域外の住民の多くの人たちは、後継者がいないということを理由に、転売、あるいは転貸、そういうのができればいいと思っているように私は感じます。先ほど言ったように、まちづくりのゾーニング検討会には参加している人はいません。こういう地域のまちづくりという名の下意識の問題には疑問を感じます。

また、この地域の資源とは何だろう。私も一般質問で何回か質問いたしましたが、市の農業政策、国でもそういう政策は発表されていますが、それと連動して、その地域の資源である優良農地、これが地域の資源だと私は思っています。これを活かしたまちづくりこそ、今、大事、求められていると思います。

そして、市街化区域編入による固定資産税、あるいは都市計画税、そういうものの高騰の問題、そして営農の継続、この問題について。

優良農地を市街化区域に編入して区画整理事業を進める都市利用の構想策定、これをして整備課題をしっかりとやっていく、こういう説明がありました。まちづくりに農地を守っていく農業の政策は無視されていると思います。

市街化区域に編入しても農業はできると。これは3年前、市の職員が地域の人たちに言った言葉です。そう言われて、農家の方からは、固定資産税がかなり上がる、都市計画税が追加されると。旧焼津地域の大富の人からの情報だったんですけど、川を一本隔てて、片方は市街化区域、片方は調整区域。こうなっていて、同じ農業をやっているけど、その農地の固定資産税、そして都市計画税、それを合わせると現在の単位面積当たりの70倍近くにもなる、そういう現実を見せられながら、そういう可能性もあるのではないかということで、このままでは営農を続けることはできないだろう、こんな声が聞かれています。

また、農家でないこの地域の住民からは、住宅区域が決められることによって減歩もある、そして新たに住宅を建築することなんて今からではとてもできないと。市の説明では、土地の価格が上がるから大丈夫、このようなことを言われたと。今の年齢を考えてもとても無理だと、そういう声がありました。

農業政策とも連動して、地域の資源である優良農地、こういうものを活かしたまちづくりを予算にしていくべきだと私は思いますが、皆さんのお考えを聞きたいと思いません。よろしく願いいたします。

○村松幸昌委員長 説明が終わりました。

本件について皆さんの御意見をお願いします。

御意見、いかがでしょうか。

○秋山博子委員 建設経済の委員会でも8款5項1目のS I C周辺整備事業費、これ、どのように進めていくのかということに疑問させてもらってはいるんです。

それで、これまでも地域の住民の集まりに何回か行って、御意見を伺ったこともあったんですけども、どうも市の委員会での答弁を聞いても、これは自分たちがルールを敷いているわけではなく、準備組合なり、そういったところでの話合いに沿っていくので、自分たちが誘導しているわけではないということと言われるんですけども、やはり地域の人の声を聞くと、市の答弁と食い違いのような、行き違いのようなものをずっと感じているところです。

そもそも、これ、1つの例えば非常に限られた区域の中での話でなく、焼津市全体のまちづくりとの関係の中でこの課題は捉えるべきだというふうに思うので、私としては、もう少し情報の共有というのができないといけないんじゃないかなというのを感じつつ、この事業を見ているところです。

地域の議員であるとか、地域外の議員であるとかということに関係なく、焼津市全体の課題として議員として関心を持っていくべきことではないかなというふうに感じているところです。

以上です。

○村松幸昌委員長 ほかに御意見ありますか。

よろしいですかね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 それでは、ほかに御意見がありませんので、本件については以上で終わります。

以上で、議員間討議を終わります。

次に、議第1号について討論を行います。

ありませんか。

○杉田源太郎委員 今、2点について御意見をいただきましたけど、やはり、これ、事前に通告をしてもらいたいということでしたけど、事前に通告したのは私だけだったんですけど、事前に通告されている問題について、議員間討議での内容について課長のほうからメッセージもあったように、みんなの意見を聞く場なんだということを言われていました。しかし、ここで提案された問題についての御意見があまりにもされていないというのは非常に残念に感じます。

まず、一般会計、全般にもありますけど、今、この2点について言わせていただければ、ミニステーションの問題について言えば、今言ったように地域の方の大きな声、これが1年間、先ほど深田委員のほうからも説明がありましたけど、1つの自治会だけが要望している。しかし、地域の人たちの声、これは本当に煮詰まることがあります。岡田委員のほうからもあったいろんなところでお店や、あるいは民営の新聞回収とかそういうのはありますけど、残念ながら、先ほども言いましたけど、ペットボトルだとか、あるいは瓶、缶、そのほか様々な回収は行われることがない。1週間に1遍、各地域で時間、朝何時までという限定はあるかもしれないけど、そこになかなか出せないような状況の方もかなりいらっしゃることは確かです。

そういう意味で、市の先ほども言いましたホームページでも書いてあるミニステーションの目的、そして、気候変動の問題、そういうことに対して資源ごみを再利用していく、そういう観点からこの問題についてはしっかり市として対策ができるまで暫定的にやると頑張らなければいけないと思います。

そして、今のスマートインターチェンジ付近のまちづくりの問題に関してですけど、まず、地元に住む、検討区域内に住む、そういう人たちの意見が尊重されていない。そこを聞くような、そういう場がしっかり持たれていない点もやっぱり大きな問題だと思います。

先ほど言った耕作放棄地になるような、そういう状態というのは、現実問題あるけど、今、農政としてしっかり焼津でもモデル地域を静浜地域に設けながらやっていくという方向を出され、そしてそのほかの地域でもこの農政がいろいろ声をかけ始めてやっています。

そういう意味で焼津市の財産である優良農地、こういうものをしっかり守っていく、そういう立場で予算を使っていただければならないと思います。

以上を申し上げて、反対討論といたします。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 なければ、以上で討論を打ち切ります。

それでは、これより採決いたします。

議第1号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手多数であります。よって、議第1号は、これを原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、予算決算審査特別委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

以上で、予算決算審査特別委員会を閉会いたします。皆様、大変御苦労さまでした。

閉会（9：26）